

スマートフォンで作る動画コンテンツ

－信濃町メディアセンター紹介動画作成の記録－

にしぎき あ さ こ
西崎亜砂子
(信濃町メディアセンター)

1 はじめに

2022年3月、信濃町メディアセンターWebサイト上で「信濃町メディアセンター紹介動画」(図1)を公開した¹⁾。これは、新たに信濃町キャンパス所属となった学生・教職員を主なターゲットに、館内の様子を見せながら資料、学習スペース、サービスについて5分ほどで紹介した動画である。これまで信濃町メディアセンターではセミナー動画などを作成する際、PowerPointのスライドショーを動画に変換する方法やZoomの録画をパソコンソフトで編集する方法をとっていたが、今回の紹介動画の作成にあたって初めてスマートフォンアプリを使用した。そこで本稿では、スマートフォンでの動画作成について報告するとともに、従来の作成方法と比較してのメリット・デメリットやツールの使い分けなどについて見解を述べる。

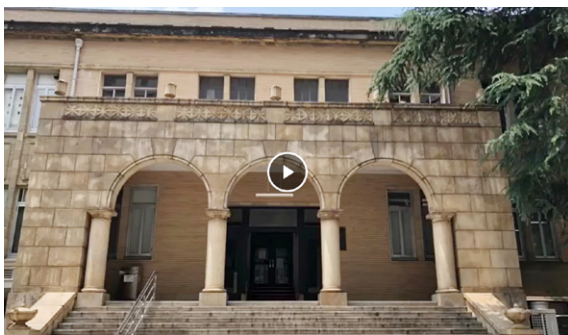


図1 信濃町メディアセンター紹介動画の冒頭

2 動画作成の経緯

この紹介動画を作成したきっかけは、当時筆者が参加していた私立大学図書館協会 東地区部会研究部の研修分科会にて、各自の図書館の紹介動画を作成する課題が出されたことである。作成方法の指定はなく、様々な技法を試してみるという趣旨もあったことから、スマートフォンアプリでの作成に挑戦することとした。

研修分科会終了後、作成した動画の一部内容を修正したうえで、「信濃町メディアセンター紹介動画」として改めて完成させた。

3 動画作成方法

(1) 使用ツール

動画の作成にはInShotというスマートフォンアプリを使用した。このアプリを選んだのは、操作方法がそれほど複雑ではない、インターネットで使い方を検索すると多くの情報がヒットする、無料の範囲で十分な編集機能が備わっているといった理由からである。

(2) 作成手順

動画の作成手順は以下の通りである。

- a 動画の構成を決定
- b スマートフォンで館内などを撮影
- c 撮影した写真・動画をInShotに取り込み
- d トリミングをしながら写真・動画を結合
- e テキストやナレーション、BGMを挿入
- f エフェクト(特殊効果)などを設定
- g 1本の動画として書き出し

動画の構成は、内容の伝わりやすさを考慮し、資料、学習スペース、サービスという3つの観点で区切ることにした。その中で、動きをつけて見せたい部分とそうでない部分で動画と写真を使い分け、それらが自然につながるように編集した。また、動画内の注目してほしい箇所を枠線で囲むエフェクトをつけるなど、よりわかりやすくなるよう工夫した。InShotには動画内で使用できるステッカー(装飾)も多く用意されているが、SNS向けのポップなデザインのものが大半で、今回の動画の雰囲気には合わなかったため使用しなかった。

4 メリット・デメリット

従来のパソコンによる動画作成と比較してスマートフォンでの作成のメリット・デメリット、またそれを踏まえてのツールの使い分けについて以下に述べる。ただし、あくまで特定のアプリを使用している個人的な見解だということには留意いただきたい。

(1) メリット

- ・写真や動画を撮影してすぐに編集を始められ、スマートフォン内で作業が完結する
- ・直感的な操作が可能で、初めてでも迷いにくい
- ・臨場感のある動画を作りやすい
- ・元からあるエフェクトなどの機能を使用することで凝った編集が手軽にできる

メリットとしてはとにかく操作が簡単な点が大きいの。パソコンソフトに比べてメニューがシンプルで、各機能の使い方もわかりやすい(図2)。テキストを挿入したり、部分的に音量や再生速度を変えたりすることも比較的簡単である。パソコンソフトのほうが高度な編集が可能であるものの、図書館が提供するレベルの動画に必要な編集機能としては十分と思われる。

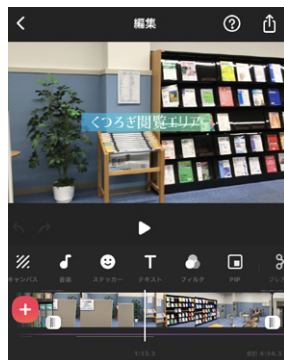


図2 InShotの編集画面

(2) デメリット

- ・編集画面が小さく見づらい
- ・作業データの共有ができないため、作成者以外は(書き出し後の動画のトリミングなどを除き)編集できない
- ・完成するまでの間(内容更新の可能性がある場合は完成後も)スマートフォンの容量を圧迫する

デメリットとしては、他の人と作業データを共有できない点が大きいの。従来の作成方法でも基本的に動画の編集作業は一人で行っていたが、内容の更新が多いコンテンツについては後から誰でも編集可能な状態にしておけることが望ましい。一部のアプリでは作業データをパソコンに移すことで他の人も編

集できるようだが、有料であったり対応機器が限られていたり、ハードルは高いといえる。

(3) ツールの使い分け

上記のメリット・デメリットを踏まえ、動画作成ツールの使い分けを考えてみる。まず、利用者に対して主に文字で説明したい場合はPowerPointのスライドショーを使用するのが適当である。また、PowerPointはスライドごとに内容の修正や音声の撮り直しが簡単にできるため、内容の更新が多く、手直しして長く使っていきたいコンテンツにも向いている。それに対しWebサイト案内動画など、画面録画を多く入れたいコンテンツの作成は、一度Zoomで録画を行い、適宜別のソフトでトリミングなどを行うのが効率的だと考えられる。

一方、スマートフォンで撮影した動画をつなぎ合わせて臨場感を出したい場合や、見映えのする動画を手軽に作りたい場合はスマートフォンアプリが便利である。今回の動画についても、文字で細かく説明するより、写真や動画を使って館内の雰囲気を知ってもらい、気軽に足を運んでもらうことをコンセプトとしていたため、スマートフォンでの作成が適していたといえる。

5 コンテンツの利活用と今後の展望

一度作成したコンテンツは、その後様々な場面で活用することができる。今回の動画も、後日、全国の医学部生を対象とした「病院見学会」というイベントで信濃町メディアセンター紹介の一部として使用した。アフターコロナの時代を迎えても、非来館型サービスを提供する手段やメディアセンターの魅力を発信する手段として動画コンテンツは有用であろう。そして前項で述べたようなツールごとの特性を踏まえ、目的に応じてツールを使い分けることで、より効果的なコンテンツ作りができると思う。今後も新しい手法に挑戦しながら、利用者にとって魅力のあるコンテンツの作成に取り組んでいきたい。

参考文献

- 1) 信濃町メディアセンターWebサイト. “信濃町メディアセンター紹介動画の公開”.
https://www.lib.keio.ac.jp/news/005134_Jp.html.
(参照 2022-07-14).